3

機密

井上毅氏ノ書牘ニ對スル意見

書記官長伊東巳代治

大木議長殿
寺島副議長殿

114
A2587
4

埴田井上文庫

毅氏ハ行政裁判法ニ於ケル樞密院
ヲ修正ヲ不可トスルノ意見ヲ両陛下ニ致サレ
小官幸ニ一覧スルノ栄ヲ得タリ氏ノ辯難攻
撃ノ主眼ヲ擧クレハ本院成議ノ結果ハ一、憲
法ニ矛盾ス二、憲法義解ニ矛盾ス三、市制町村
制ニ矛盾スト云フニ在リテ鋭鋒ヲ縱横ニシ
タリ伏シテ惟フニ本院ハ聰明ヲ裨補シ偏聽
ナキヲ期セラルヽノ至高詢謀ノ府ナルヲ以
テ假令事殆ト既遂ニ屬スト雖萬一ニモ氏ノ
辯難スル如キ實アリトセン乎復ヒ熟議平翻

スルハ洵ニ本院ノ責守サリトス殊ニ樞密顧問ハ
憲法又ハ法律ノ屏翰タルノ任ナルヲ以テ苟モ
其ノ成議ノ憲法及法律ニ矛盾スト云フニ至テ
ハ事爲レヨリ重大ナルハナシ然リト雖行政裁判
法及訴願法ハ之ヲ今古ニ鑒ミ之ヲ學理ニ徵シ
精査細覈數日ノ熟慮審議ヲ經テ始メテ成案ヲ
得タルモノナリ而シテ其ノ修正ノ理由ニ至テ
ハ確然タル根據ノ存スルアリ故ニ小官ハ一己
ノ私見ヲ以テ氏ノ説ヲ反駁スルニ非ラス不肖
ヲ以テ書記官長ノ任ヲ叨リニスル間ハ本院ニ

於テ諮詢案ニ修正ヲ加ヘラレタルノ理由ヲ臚
列シ以テ両閣下ノ瀝覽ヲ乞ヒ且氏ノ駁擊ノ當
ラサルヲ證論スルハ職任上當然ノ義務タル
ヲ信セリ故ニ謭劣ヲ顧ミス其ノ討究成案ノ
理由ヲ叙述シ以テ氏ノ説ヲ反駁スルハ止ム
ヲ得サルニ出ツ行文稍〻峻厳ニ渉ルノ嫌ナ
キニ非スト雖是非ヲ剖判シ修補ノ理由ヲ明
覈ニスルニ於テ復タ避クヘカラサルモノアル
ニ至テハ氏ニ對シ諒恕ヲ請ハサルヲ得サ
ル所ナリ氏ノ書牘中自問自答ノ文法ヲ以
ニ

テ本院ニ於テハ云ヽノ理由ヲ以テ云々ノ決
議ヲ為シタリト假攝妄想ヲ以テ辯難ヲ恣マ
ヽニシタルモ如何セン皆其ノ正鵠ヲ失シ一
モ適中スルモノナシ今本院ニ於テ修正シタ
ル理由ヲ敍列セハ自ラ釋然スル所アラン

第一　本院ノ成議ハ憲法ニ矛盾セサルコト

井上氏ハ本院議定ノ案中法律ノ下ニ新ニ勅令ノ
字ヲ加ヘタルモノアルヲ非議シテ曰是レ法律勅令
ヲ以テ一般ニ之ヲ平等同視シテ其ノ間ニ一モ斟酌ヲ
置カサルモノヽ如シト又曰法律ノ正文ニ於テ已ニ行

政訴訟ノ期限ヲ定メテ六十日トシ而シテ又勅令ヲ
以テ此ノ規定ヲ変更スルコトヲ許スニ至リテハ是
レ勅令ヲ以テ法律ヲ変更スルコトヲ得ストスル
憲法ノ原則ヲ省顧セサルモノナリト
今此ノ言ノ妄ナルヲ辯センニハ先ツ本院ノ議定ニ
於テ法律ノ外ニ勅令ヲ加ヘタルノ主意ヲ解説シ而
シテ後其ノ各條ニ付テ憲法ノ原則ヲ省顧セサル
モノ一モ有ラサルヲ解説セサル可カラス
抑ヽ本院ニ於テ行政裁判法ノ權限ヲ定ムルノ条
ニ法律ノ外勅令ヲ加ヘ従テ審判ノ期限手續等

ニ至リテモ法律并ニ勅令ニ特別ノ規程アル場合ハ之ニ依ルヘキモノトシタルハ三ノ理由アルニ因レリ、即チ一ハ本邦憲法ノ他ニ比類ナキ美質ヲ行政裁判法ノ為ニ損滅セサランコトヲ欲シタルト一ハ行政權ニ對シテ民臣ノ權利ヲ保護シ義務ヲ明瞭ニスルノ主旨ヲ更ニ善ク徹底セシメントシタルト一ハ行政權ノ部内ニ於テ監督ノ主義ヲ更ニ完全ニセントシタルトニ因レリ請フ此ノ三点ヲ別論セン

(第二)本邦憲法ノ美質トハ何ソヤ曰、歐州各國ノ憲法ハ其ノ欽定ニ出ツルモノト蚤三權鼎立ノ主義ニ基キ下ヨリ之ヲ促シテ得タル所ナルカ故ニ百般ノ制度ハ悉ク皆立法部ノ議定シタル所ニ出ツヘク、行政ノ例規ニ至リテモ必ス法律トシテ之ヲ制定シ、政府及自治体ハ唯タ法律ヲ實施スルコトヲ司ルヘキノミ曾テ法律ノ範圍外ニ於テ獨立ノ命令ヲ發シテ自由措施スルノ權無キモノトセリ而シテ列國中行政部ノ權最モ大ナリトスル事漏生ニ於テスラモ憲法上ニ法

律執行ノ命令ト臨時緊急ノ命令トヲ認
ムルノミ其ノ外ニ於テハ國王ト雖法理上
ハ勅令ヲ以テ法律ノ永タ規定セサル所ヲ
規定スルコトヲ得ス唯タ實際ニ於テ此ノ
原則ノ到底格守シ難キ場合ニ於テ獨立ノ
命令ヲ發シ議會モ之ヲ黙許スルノミ、又
墺太利ハ命令ヲ以テ自由ニ規定シ得
ヘキノ場合ヲ法律ニ明言シ、其ノ他ノ場
合ニ於テハ一切之ヲ許サヽルノ主義ヲ取レリ、
而シテ學者ハ凡ニ此ノ制ノ國家ノ大理ニ合セ
サルヲ說キ法律執行ノ命令及緊急命令
ノ外別ニ法律ノ永タ存セサル事件ニ付キ
之ヲ補充スルノ命令ヲ發スル權ヲ行政
部ニ屬セシムルノ必要ヲ切論シテ措カ
ス唯タ此ノ如ニ

律執行ノ命令ト臨時緊急ノ命令トヲ認ムルノミ其ノ外ニ於テハ國王ト雖法理上ハ勅令ヲ以テ法律ノ永タ規定セサル所ヲ規定スルコトヲ得ス唯タ實際ニ於テ此ノ原則ノ到底格守シ難キ場合ニ於テ獨立ノ命令ヲ發シ議會モ之ヲ黙許スルノミ。又墺太利ハ命令ヲ以テ自由ニ規定シ得ヘキノ場合ヲ法律ニ明言シ、其ノ他ノ場合ニ於テハ一切之ヲ許サヽルノ主義ヲ取レリ、而シテ學者ハ風ニ此ノ制ノ國家ノ大理ニ合セサルヲ説キ法律執行ノ命令及緊急命令ノ外別ニ法律ノ永タ存セサル事件ニ付キ之ヲ補充スルノ命令ヲ發スル權ヲ行政部ニ屬セシムルノ必要ヲ切論シテ措カス唯タ此ノ如キ命令ノ為ニ既存ノ法律ヲ變更スルノ不可ナルヲ説クノミ、然リ而シテ本邦ニ於テ憲法ヲ制定スルニ當リテハ此ノ事實ヲ鑑ミ此ノ理論ヲ考ヘテ各國普通ノ二種命令ノ外別ニ其ノ第九條ニ於テ國家ノ安寧秩序ヲ保持シ臣民ノ幸福ヲ增進スル為ニ命令ヲ發シ若ハ發セシムルノ權ヲ認メタルハ實ニ各國ノ為サント欲シテ為ス能ハサル所ヲ始メテ日本憲法ノ明文ニ掲ケタルモノニシテ、グナイスト以下ノ學者ノ贊

律執行ノ命令ト臨時緊急ノ命令トヲ認
ムルノミ其ノ外ニ於テハ國王ト雖法理上
ハ勅令ヲ以テ法律ノ永タ規定セサル所ヲ
規定スルコトヲ得ス唯タ實際ニ於テ此ノ
原則ノ到底格守シ難キ場合ニ於テ獨立ノ
命令ヲ發シ議會モ之ヲ黙許スルノミ、又
墺太利ハ命令ヲ以テ自由ニ規定シ得
ヘキノ場合ヲ法律ニ明言シ、其ノ他ノ場
合ニ於テハ一切之ヲ許サヽルノ主義ヲ取レリ、
而シテ響者ハ風ニ此ノ制ノ國家ノ大理ニ合セ

サルヲ說キ法律執行ノ命令及緊急命令
ノ外別ニ法律ノ永タ存セサル事件ニ付キ
之ヲ補充スルノ命令ヲ發スル權ヲ行政
部ニ屬セシムルノ必要ヲ切論シテ措カ
ス唯タ此ノ如キ命令ノ為ニ既存ノ法律
ヲ變更スルノ不可ナルヲ說クノミ、然リ而
シテ本邦ニ於テ憲法ヲ制定スルニ當リテ
ハ此ノ事實ヲ鑑ミ此ノ理論ヲ芳ヘテ各國
普通ノ二種命令ノ外別ニ其ノ第九條
ニ於テ國家ノ安寧秩序ヲ保持シ臣
民ノ幸福ヲ增進スル為ニ命令ヲ發シ若ハ
發セシムルノ權ヲ認メタルハ實ニ各國ノ為サン
ト欲シテ為ス能ハサル所ヲ始メテ日本憲法ノ明
文ニ掲ケタルモノニシテ、グナイスト以下ノ學者ノ贊
義シテ措ク能ハサルモ實ニ此ノ一点ニ在リ

夫レ然リ既ニ憲法第九条ヲ以テ此ノ権ヲ行政部ニ属セシメタル上ハ今日ノ立法者ハ宜シク将來ニ於テ其ノ結果如何ヲ思フヘキナリ、将來ニ於テ此ノ一点ノ為ニ我カ行政ハ大ニ欧洲各國ノ行政ト形勢ヲ異ニセサルヲ得サルヲ思フヘキナリ蓋シ帝國憲法ニ於テモ司法権ハ第五章ヲ以テ悉ク法律ニ依リ之ヲ行フヘキモノトストイヘトモ行政権ニ至リテハ唯タ第二章ニ於テ法律ニ依ルニ非サレハ制限スヘカラサル臣民ノ権利自由ト法律ニ依ルニ非サレハ負擔セシム可カラサル臣民ノ義務トヲ列擧シタルノミ其ノ餘ノ事項ニ至リテハ命令ヲ以テ規定シ得ルヿ憲法ノ明記スル所ナルカ故ニ我邦行政権ノ行用ニ於テ命令ノ範圍ハ他國ニ比シテ甚タ廣大ナラントス然ルニ此ノ廣大ナル範圍ヲ擘ケテ行政裁判ノ權ノ及ハサル所ニ措カンスルハ果シテ如何ソヤ憲法第九条ヲ以テ許シタル國家ノ安寧秩序ヲ保持スルノ命令ハ臣民ニ義務ヲ負ハスフナシトスルカ其ノ臣民ノ幸福ヲ增進スルノ命令ハ彼等ニ權利ヲ得

セシムルヿ無シトスルカ。果シテ之ヲ負シ之ヲ得シムルモノトセハ之ニ付キ爭議ノ起ル場合モ亦隨テ多カラントス而シテ爭議ノ特ニ多カラントスルモノハ裁決ヲ得セシムルノ門ヲ開カサルヘカラス、即チ本院ニ於テ行政裁判ノ範圍ヲ命令ニ及ホシタルモノハ本邦行政權ノ獨リ法律ニ基クノミナラス又命令ニ依ルノ必然ノ結果ナリ、若シ命令ニ及ハストセハ他國ニ於テ行政裁判ノ範圍ニ屬セシムルモノヽ大半ハ本邦ニ於テ此ノ範圍外ニ出テントスルナリ

蓋シ本院ノ議定ニ於テ特ニ勅令ト云ヒ命令ト云ハサルモノハ各省以下ニ於テ發スル命令ヲ以テ行政裁判所ノ權限ヲ伸縮スルヿヲ得セシムルハ權衡ノ宜シキヲ得タルモノニ非サルニ因ル

(第二)凡ソ國ニ行政裁判所ヲ設クル目的ノ一ハ行政權ニ對シ人民ノ權利ヲ保護シ義務ヲ明瞭ニスルニ在リ、而シテ此ノ權利義務ハ獨リ法律ニ依テ生スルノミナラス又勅令ニ由テ起レリ、例ヘハ將來ニ於テ若シ水利ニ係ル勅令ヲ發スト

上ノ如ニ依リ沿岸地主ニ用水ノ権利ヲ得シメ山林ノ為ニ勅令ヲ設ストセハ山林所有者ヲシテ一定ノ義務ヲ負ハシムルノ類多々之レアラントス、而シテ此ノ権利義務ヲ以テ全ク裁判ノ外ニ措クハ蓋シ國ニ行政裁判所ヲ設クルノ主意ニ戻ラン

丙

（第三）行政裁判ハ之ヲ臣民ヨリ見レハ、権利義務ノ保護ナリト雖之ヲ國家ヨリ見レハ行政権監督ノ機関ナリ、即チ憲法上行政事務カ規程通リニ行ハレテ官吏ノ随意ニ左右スル無キヲ保スル方便ノ一ナリ、行政裁判ニ臣民保護ト行政監督トノ二重ノ目的アルハ、獨逸國法学諸家ノ論ニ見エタリ左ニマイエルノ一例ヲ引テ證トス

ゲヲルグ、マイエル獨逸行政法第十一節ニ曰ク「行政裁判ノ目的ハ行政ニ関シ存スル「レヒト」法又ハ権ノ原則ヲ保全スルニ在リ即チ行政作用

ノ常ニ客觀ノ「レヒト」(即チ物ニ就テ成立スル法)ニ合ヒ特ニ諸行政法ニ合ヘルノ擁保タルヘキモノナリ行政裁判ハ此ノ目的ヲ達スルト同時ニ又主觀ノ「レヒト」(即チ人ニ在ル權)ノ保護トモ為ルヘキモノトス何トナレハ主觀ノ「レヒト」ハ皆客觀ノ「レヒト」ニ因リ起ルモノニシテ客觀ノ法ニ背クトキハ必ス主觀ノ權ヲ侵スニ至レハナリ然レトモ主觀ノ「レヒト」ヲ保護スルノミヲ以テ行政裁判ノ專一ノ目的ナリト為ス可カラス何トナレハ行政法ノ

範圍ニ於テハ「レヒト」ノ原則ニシテ唯タ公益ヲ計ルノミ主觀ノ「レヒト」ヲ作出セサルモノ亦多ケレハナリ也ニ

果シテ然ランニハ此ノ監督ノ主義ヲ法律ニ依ル行政事務ノ範圍ノミニ限リテ勅令ニ依ルノ範圍ニ及ホサヽルハ不倫ト謂ハサルヲ得ス

以上ハ本院ニ於テ法律ノ外ニ勅令ヲ加ヘタルノ理由ナリ

次ニ各條ニ就キ憲法ニ違戻スルモノナキヲ

澄明セン

即チ本院議定案ノ第十五条ニ曰

行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

本条ニ勅令ヲ加ヘタルノ主意ハ上陳ノ如クナリトシテ論者或ハ言ハン我カ憲法第六十一条ニ行政官廳ノ違法處分トアルハ法律違反ノ處分ナレハ本条ハ第六十一条ト抵觸スト、答テ曰違法トハ不適法ノ義ニシテ法律并ニ命令ヲ含ムコト既ニ学漏生ノ解釈ニシテ墺太利行政裁判法ノ理由書ニ此ノ説明ヲ見ルノミナラス伊藤伯ノ憲法義解ニ「法律ニ違ヒ又ハ職權ヲ超エ臣民ノ權利ヲ傷害スルコトアルニ当リテハ行政裁判所ノ断定ヲ受クルコトヲ免レス」トシヒ又「行政官廳ノ違法ノ處分トシフトキハ法律又ハ正當ナル職權ニ依ルノ處分ハ之ヲ訴フルコトヲ得サルコト知ルヘキナリ」トシヘルニテモ其ノ義明白ナリ何トナレハ官廳職權ノ正否ハ多タ勅令ニ依テ定マルモノニシテ若悉ク皆法律ニ依ルモノトセハ別ニ職權シタト語ヲ重ヌ

ルヲ用ヰサレハナリ

又十七條ニ曰

行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外訴願法ニ依リ地方上級行政廳ノ裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ為シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

本条ハ訴訟提起ノ要件ヲ示スモノニシテ訴願法ニ依リ地方上級行政廳ノ裁決ヲ經タル後行政裁判所ニ出訴セシムルヲ定則トスルモ事件ニ依テ除外例ヲ設ルトキハ其ノ除外例ニ依ルヘキヲ示スノミ而シテ既ニ法律ノミナラス勅令ヲ以テ訴訟ヲ許ス場合ヲ規定スルコトアル以上ハ又勅令ヲ以テ此ノ除外例ヲ設クルノ必要アルヘキナリ若獨リ法律ノミ臣民ニ訴權ヲ與フルノ効力アリテ而シテ勅令ヲ以テ其ノ例

外ヲ没クルコトヲ許スニ至リテハ命令ヲ以テ法律ノ正則ヲ改ムルノ嫌アリト雖モ始ヨリ勅令ヲ以テ訴権ヲ認ムルノ場合アリト定ムル上ハ其ノ訴権ニ関スル権利関係ヲ勅令ニ於テ定ムルコト固ヨリ仔細アルコト無シ

又第二十二条ニ曰

行政訴訟ハ行政廳ニ於テ裁分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ経過シタルトキハ行政訴訟ヲ為スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算并ニ災害事変ノ為メ遷延シタル期限ニ関シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

本条ハ井上氏ノ特ニ命令ヲ以テ法律ヲ変更スルヲ得ストスル憲法ノ原則ヲ省顧セサルモノトシテ指摘セラレタル所ナルモ何ノ故ニ此ノ一条ノミ不幸ニシテ此ノ寛

ヲ被ルヤヲ解スル能ハス此ノ法律中
ニ正文ヲ立テ、勅令ヲ以テ例外ヲ設ク
ルコトヲ許スハ獨リ本条ノミナラス第
十七条モ全ク同一ナリ而シテ其ノ憲法ニ
違反セサルノ理由モ亦同シ、即チ第十五
条ニ於テ既ニ勅令ヲ以テ訴權ヲ許スノ
場合ヲ認メタルカ故ニ此ノ場合ニ在テ
ハ勅令ヲ以テ其ノ出訴ノ期限ニ付キテ
モ除外例ヲ立ツルコトヲ許スモノナリ」

若法律ヲ以テ訴權ヲ許シ且出訴期限ニ付キテ
モ既ニ其ノ法律ニ一定ノ規程アルモノニ関シ
勅令ヲ以テ除外例ヲ立ツルニ至リテハ之ヲ純
然タル憲法違反ト謂ハサルヲ得スト雖此ノ如
キハ憲法ノ大則ニ讓リテ本法ノ特ニ警戒スル
所ニ非サルナリ
其ノ他第二十三条ハ憲法ニ違反セサルノ理由
前条ニ同シク第二十七条ハ第十五条ニ勅令ヲ加
ヘタル必然ノ結果ナリ
之ヲ要スルニ井上氏ハ本院議定ノ案ノ列記法ヲ

取ルモノナルコトヲ忘レ夫ノ自家眼中ニ在ル所ノ概括主義ヲ以テ此ノ案ヲ視ルニ因リ憲法違反ノ論ヲ為スニ至レルモノ乎即チ法律ハ自ラ禁令ヲ設ケテ勅令ニ其ノ禁令ヲ破ルコトヲ委任スルコトヲ得可カラス、自ラ制限ヲ立テテ勅令ニ其ノ制限ヲ毀ツコトヲ委任スルコヲ得可カラス若其ノ禁令ト制限トヲ確定シタルニ拘ラス勅令ヲ以テ之ヲ変更左右スルコトヲ得セシメハ是レ法律ノカハ至テ微弱ナル者トナリ禁令及制限ハ絶對的ノ性質ヲ固有スルニ拘ラス絶對的ニ行ハルヽノ結果ナキニ至ラントス是レ憲法ノ明文ニ豫見シテ之ヲ防禁シタル所ナリト是レ普通概括主義ノ法律ニ就テ言フヘキ所ノミ列記主義法律ノ然モ法律并ニ勅令ノ列記スル所ヲ基トスル者ニ就テ言フ可キコトニ非ス抑〻列記主義トハ行政裁判法ニ就テ之ヲ言ヘハ直ニ其ノ法律ヲ以テ出訴ノ權ヲ臣民ニ與ヘス他ノ例規ニ之ヲ讓リ唯タ他ノ例規ノ出訴ヲ許ス場合ニ於テ其ノ訴訟ノ期限手續等ニ付キ別ニ規程ナキモノヽ此ノ法律ニ依テシムル

ヲ謂フナリ是ヲ以テ他ノ例規ニ於テ出訴ヲ許サヽル場合ニ於テハ此ノ法律ハ行ハレサルモノナリ、而シテ他ノ例規ト云フ中ニ法律アリ勅令アルナリ故ニ其ノ勅令タル場合ニ於テハ勅令ノ期限手續等ニ付キ規定スル所ニ依テシムルモ妨ケナシ訴權ハ本ニシテ期限手續等ハ皆訴權ヨリ生スルモノナレハ勅令ヲ以テ出訴ヲ許シタル場合ハ其ノ期限、手續等ニ付キ行政上便宜トスル所ニ從ヒ同シク勅令ヲ以テ多少ノ特例ヲ定ムルコト固ヨリ至当トス

元来ノ訴權ハ勅令ヲ以テ許シナカラ其ノ期限手續等ノミ必ス法律ニ依ラサルヘカラストノ理由ヲ見ス即チ以上数条ニ於テ勅令ノ特ニ規定スル場合ヲ除キタルハ此ノ理ニ由ルモノニシテ是レ第十五条ニ於テ行政裁判ノ範囲ヲ勅令ニ及ホシタルノ結果ナリト謂ハサルヲ得ス、語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ本院議定ノ行政裁判法ハ井上氏ノ疑ノ如ク「自ラ禁令ヲ設ケ制限ヲ立テヽ勅令ニ之ヲ破毀スルコトヲ委任スルモノ」ニ非スシテ寧ロ他ノ法律勅令カ之ヲ本法ニ譲リテ自

ラ規定セサル場合ノミニ於テ禁令ヲ設ケ制限ヲ立ツルモノナリ従テ其ノ禁令制限ハ始ヨリ絶対的ハ性質ヲ固有スル能ハサルモノナリ是レ皆列記法ニ依ルノ結果ニシテ尋常一般ノ法律ヲ以テ推ス可カラサル所以ナリ尋常一般ノ法律ニ在テハ其ノ禁令制限破毀ノ権ヲ勅令ニ委任スルヲ得スシテ此ノ法律ニ於テノミ之ヲ委任スルモ亦憲法違反ニ非サル者ハ尋常一般ノ法律ハ如何ナル場合ニ於テモ勅令ヲ以テ始メテ効力ヲ得ルコト無ク、獨リ此ノ法律ノミ此ノ場合アルニ因

ルコトナリ而シテ是レ一ニ第十五条ヲ以テ訴権ノ範囲ヲ擴メタルニ起ルコトナレハ其ノ精神ヨリスルモ臣民ノ権利関係ヲ傷害シタルモノト謂フ可カラサルナリ

是ヲ以テ論者カ本法ヲ會計法ノ或ル条項ト比較セントスルモ固ヨリ失當ナリトス、何トナレハ會計法ハ概括法ニ依ルモノニシテ如何ナル場合ニ於テモ勅令ヲ以テ始メテ効力ヲ得ルコト無キモノナレハナリ

由是観之本院ノ議定ニ於テ第十五条ニ勅令ノ字ヲ

加ヘラレタルハ一方ニ於テ原案ノ主義ヲ助ケテ概括ノ結果ヲ避ケナカラ他ノ一方ニ於テ行政命令ノ範囲ヲ廣汎ニスルノ主義ヲ恰守シテ憲法ノ無比ノ美質ヲ全ウシ併セテ民庶ノ權利ヲ重シ行政ノ規矩ヲ嚴ニシ実ニ一擧両全ノ修正ト謂フ可シ而シテ他ハ皆之ニ随伴スル自然ノ結果ナリ惟フニ本院ノ勉ムル所ハ唯タ憲法ノ旨趣ヲ疏明充実スルノ一ニ在リテハ之ヲ省顧セスト云フカ如キハ本院ニ對シテ軽忽ニ用フヘキノ語ニ非サルカ

第二　憲法ノ精神及憲法義解ニ示顯セラル事

憲法ニ於テ司法主義ヲ採ラサルハ井上氏ノ言ヲ待タス憲法第六十一條ノ明文ニ依レハ明カニ行政裁判ノ司法裁判以外ニ在ルコトヲ知ルヲ得ヘシ然レトモ其ノ採ラサル所ノ司法主義ナルモノハ井上氏ノ所謂司法主義ナルモノト大ニ異ナレリ

蓋シ裁判ハ司法ノ職任ナリト云フノ原則ニ依テ獨リ民事上ノ争訟ノミナラス公法上ノ争議

ニ至ルマテモ一切之ヲ司法裁判所ノ管轄ニ属セシムルノ主義ヲ司法主義ト称ス（猶進語之ヲ「エスチーツスタ」ト云フ）欧州列国ノ中此ノ主義ニ依ル者極メテ稀ナリ大国ニハ獨リ伊太利アルノミ（井上氏ハ伊太利ヲ挙ケテ行政官ヲシテ行政訴訟ヲ裁決セシムル国ノ一例トシタリ然レトモ「エルンスト、マイエル」氏行政裁判論伊太利ノ条ニハ千八百六十五年三月二十日布告ノ法律第二条ヲ引キ権利毀損ノ場合ニ於テ其ノ毀損ノ一私人ニ由ルトニ論ナク其

ノ権利ノ公権私権ニ論ナク凡テ司法裁判所ニ訴フル者ナルコトヲ記シ司法主義ヲ採ル唯一ノ例トセリ右「マイエル」氏著書ハ千八百八十二年ノ出版トス知テス伊国ノ法制其ノ後改正ヲ経タルヤ否ヤ）

憲法ヲ右ノ如キ意義ニ於ケル司法主義ヲ採ラサルコトハ義解最モ詳ニ之ヲ論セリ

本院ノ修正ハ普テ行政訴訟ヲ以テ司法裁判所ニ属セシメサルノミナラス司法裁判所ト全ク関係ナキ行政裁判所ナルモノニ属セシ

原案ノ主意ヲ少シモ変更セス即チ本院ノ修正モ亦前述ノ如キ意義ノ司法主義ヲ採ラスシテ少クモ此ノ点ニ於テ憲法ト帰着ヲ一ニセルハ井上氏モ亦敢認スル所ナルヘシ然ルニ今井上氏ノ所謂司法主義ナル者ハ普通称シテ司法主義トスル所ノモノト異ナリ其ノ説ニ曰、

行政裁判ハ行政ニ属スヘキカ司法ニ属スヘキカハ是亦各国国法学上ノ一大疑問トシテ未タ帰一セサル所ナリ(中略)此ノ区別ハ実ニ其ノ組織元素ノ或ハ行政官タリ或ハ司法官タルニ因スル者ナリ

即チ井上氏ハ行政裁判官中ニ司法官タリシ者又ハ司法官ヲ兼スル者アリ並ニ行政裁判官カ司法裁判官ト同一ノ獨立ヲ有スルヲ指シテ司法主義ト謂フカ如シ是レ固ヨリ普通ニ司法主義ト称スルモノト異ナリ然レトモ名ノ当否ハ姑ク之ヲ措カン要スルニ修正案ニ於テモ行政訴訟ヲ司法裁判ニ属セシムル方針ハ其ノ始メヨリ採ラサル所ナルヲ以テ此ノ点ニ於テハ意見ヲ異ニセス其ノ意見ヲ異ニスルノ点ハ行政

訴訟ヲ司法裁判ノ管轄ヨリ引去リタル後其ノ
裁決ヲ尋常行政ノ機関ト同一ノ地位ヲ有スル
機関ニ属セシムヘキカ将タ尋常行政ノ機関ノ
外ニ別ニ特立ノ機関ヲ設ケ之ヲシテ其ノ裁判
ヲナサシムヘキカ何レカ憲法並ニ義解ノ精神
ニ適スルカト云フニ在リ
井上氏ハ義解ニ
行政ノ事宜ハ司法官ノ通常慣熟セサル所ニ
シテ之ヲ其ノ判決ニ任スルハ危道タルヿト
ヲ免トス故ニ行政ノ訴訟ハ必行政ノ事務ニ
密切練達ナル人ヲ得テ以テ之ヲ聽
理セサルヿトヲ得ス此レ司法裁判
ノ外ニ行政裁判ノ設ヲ要スル所以
ノ二ナリ
トアルヲ以テ直ニ行政裁判官ハ総ノ
行政官ヨリ成テサルヘカラスト断定
シ之ニ依テ本院ノ修正ヲ義解ニ存有
セリト主張スト雖義解ノ意ハ必スシ
モ此ノ如クナラス抑モ義解ノ此ノ一段
ハ普通ニ所謂司法主義ナルモノヲ排

ニテ行政裁判ノ司法裁判ト異ナル所以ヲ説キ行政裁判ノ組織ノ中必ス行政ニ密切関連ノ裁判官ナカルヘカラサルヲ論シタルニ過キス而トモ其ノ組織ハ果シテ行政官ノミヨリ成ルヘキ乎将タ行政官ノ外其ノ他ノ元素ヲモカヘルヘキヤ否ヤハ義解ノ曾テ明言セサル所ナリ

且義解ニ於テ行政官ト称スルハ其隨意ニ罷免スヘキ性質ヲ指シタルニアラスシテ行政ノ事務ニ練達ナルノ性質ヲ指シタルモノトス故ニ行政官カ行政官タル資格ヲ帯ヒナカラ同時ニ行政裁判官タルカ又ハ行政ノ事務ニ練達ナル行政官カ尋常行政官タルノ資格ヲ止メテ行政裁判官タルカ是レ亦義解ノ曾テ豫言セサル所トス

次ニ憲法ノ正条ヲ見ルニ「別ニ法律ヲ以テ定ムル行政裁判所ト謂フ其ノ組織ノ如キハ一切之ヲ法律ニ譲レリ

以上ノ観察ニ依ルトキハ行政訴訟ノ裁決ヲ尋常行政ノ機関ト同一ノ地位ヲ有スル機関ニ属セシムヘキカ将タ尋常行政ノ機関ノ外ニ別ニ特立ノ機関ヲ設ケテ之ヲシテ裁

判セシムヘキカノ問題ニ就テ今日ノ立法者ハ憲法及義解ノ羈束ヲ受ケス此ノ問題ハ憲法上ノ問題ニアラサルナリ

井上氏カ本院ノ修正ヲ指シテ憲法ノ精神及憲法義解ニ矛盾ストシタル意見ノ謬妄ナルハ以上ノ辯解ニ依テ既ニ明カナルヘシト信ス

蓋シ井上氏カ熱心ニ本院ノ修正ヲ攻擊シタルハ深ク司法主義ノ非ナルヲ憎ムニ出テタルモノヽ如シ司法主義ニ依ルノ制度ノ完全ナラサルハ強ト今日ノ定論ニシテ憲法義解モ亦痛ク之ヲ排斥シタルハ前既ニ之ヲ述ヘタリ然レトモ行政裁判官ニ獨立ノ地位ヲ與ヘ並ニ行政裁判官ノ中ニ司法裁判官タリシモノヲ加フルヲ以テ未タ司法主義ナリト称スルヲ得ス之ヲ各國ノ例ニ徴スルニ佛國ノ如キ別ニ行政裁判所ヲ設ケサルノ國ヲ除キ其ノ他凡ソ行政裁判ノ充分ニ發達シタリト称スル國ニ於テハ概シテ最高等行政裁判所ノ裁判官ニ獨立ノ地位ヲ與ヘ且ツ其一分ヲ司法官ヨリ取ラサルハナシ孛墺二大國ハ論ヲ俟タス獨逸ノ中等國例ヘハ尼丁堡、巴丁、巴威利ノ如キ即チ是ナリ而モ是レ偶然ニアラス事理ノ当ニ然ルヘキモノアリテ存セリ

先ツ裁判官ノ独立ニ就テ之ヲ言ハンニ行政裁判モ亦裁判ナリ両造ノ互ニ相争フ者アルニ方テ其ノ是非曲直ヲ聽断スルモノナリ即チ之ヲ聽断スル者最モ中正不偏ノ地位ニ立タサルヘカラス公平ハ裁判ノ最大要件ナリ而シテ裁判者ノ独立ハ一般ニ裁判ノ公平ニ欠クヘカラサルノ要件トナスハ今日ノ輿論ナリ故ニ今日ノ輿論ハ不独立ノ裁判官ノ裁判ヲ以テ完全ナル裁判トセス完全ナル権利ノ保護トセス特ニ行政裁判ニ於テ最モ此ノ傾向アリ何トナレハ行政訴訟ニ於テハ両造ノ一方ハ行政官タルカ故ニ若此ノ争ヲ聽断スル者其ノ法律上ノ性質ニ於テ何時ニテモ隨意ニ行政官ノ掣肘ヲ受クヘキモノナラシメハ其ノ裁判ニ就テ一般ノ信用ヲ求メントスルモ勢決シテ得ヘカラサレハナリ若憲法ニ於テ行政裁判ニ方ヲ特設スルコトヲ期シナカラ其ノ之ヲ特設スルニ及テ裁判官ニ一モ独立ノ擔保ナカラシメハ寧ロ佛ヲ作テ眼ヲ入レサルモノト言ハサルヘカラス

尤モ此ノ如キ独立ノ機関ヲ別ニ尋常行政機関

ノ外ニ設クルトキハ尋常行政機関カ其ノ働作ノ自由ヲ制限セラルヽハ曩ニ行政訴訟ヲ行政機関カ自ラ裁決シタル時ニ比シテ甚シキハ論ヲ俟タス然レトモ是レ行政裁判所ヲ設クル自然ノ結果ナリ若此ノ結果ヲ忌マハ始メヨリ行政裁判所ヲ設ケサルノ優レルニ如カス故ニ行政機関ノ自由ノ動作カ制限ヲ受クルヤ否ヤハ復タ今日ノ問題ニアラス今日ノ問題ハ其ノ制限ノ適度ニ行ハルヽヤ否ヤト云フニアリ而シテ其ノ所謂適度ハ行政裁判官ノ獨立不独立ノ問題ノミニ依テ定マルモノニアラス行政裁判官ノ獨立不獨立ノミニ依テ之ヲ定メントスルトキハ常ニ一方ノ極端ニ走ルノ弊ヲ免レス寧ロ此ノ如キ問題ハ行政裁判ノ仕組ノ全体ニ依テ定マルモノトス

今我カ立法從來ノ方針ニ依テ行政裁判ノ仕組ヲ通覽スルニ権限ニ於テハ列記法ヲ採リ組織ニ於テハ行政事務ニ練達スル者ヲ加ヘ而シテ行政裁判ヲ許シタル場合ニ於テハ大臣ニ訴願スルヲ許サスシテ最上官衙ノ裁決ヲ以テ法司

ノ審判ニ付スルヲ避クルカ如キ皆行政裁判所カ行政機関ノ自由ノ動作ヲ制限スルニ其ノ適度ヲ保タシメムトスルノ意ニ基カサルハナシ但シ此ノ仕組カ果シテ何程マテニ其ノ目的ヲ達スヘキカハ唯タ将来ノ歴史之ヲ断定スルヲ能センノミ

假ニ一歩ヲ退テ行政官ノ自由ノ活動ヲ制限スルコトヲ避ケンカ為ニ行政裁判官ヲ挙テ悉ク独立ノ地位ヲ受ケサラシメントセハ一方ニ於テ裁判ノ公平ニ對スル信用ハ復タ求ムヘカラサラントス然ラハ則チ行政裁判官ヲ独立タラシムルモ独立タラサラシムルモ互ニ得失アリト云ハサルヲ得ス院議ハ最初ヨリ最モ裁判ノ公平ヲ重シタルニ由リ行政裁判官ヲ悉ク独立セシムルノ方針ヲ取リタリシト雖モ内閣ト其議ノ協ハサルニ依リ協議ノ末遂ニ一分ハ独立トシ他ノ一分ハ独立トセサルノ案ヲ採ルニ至レリ裁判ノ公平ヲ重スルノ点ニ於テハ未タ充分ナラサル所ナキニアラスト雖之ヲ我國今日ノ情勢ニ照スニ或ハ却テ中正ノ道ヲ得タルカ如シ

次ニ又司法官タル者ヲ以テ組織ニ加フルコトニ就テヲ言ハンニ行政裁判ノ管轄事件ニハ所謂便宜問題ニ属スルモノモ亦少カラスト雖尚其多分ハ法律ノ規定ヲ各事件ニ付テ適用スル所謂法律問題トス而シテ法律問題ニ於テ最モ練達ナルハ司法裁判官ニ如クハナシ乃チ一分ハ練達ナル行政官ニ依テ行政ノ衡平ニ要スル法意ヲ保チ他ノ一分ハ練達ナル司法官ニ依テ法律ノ衡平ニ要スル法意ヲ保ツハ是亦最モ事情ニ適当ノ制ナリト云フヘシ且司法裁判官ヲ行政裁判官ニ加フルハ之ヲ司法裁判官トシテ加フルニ非ラス純然タル行政裁判官トシテ加フルモノナルカ故ニ之ヲ以テ行政裁判ニ司法ノ元素ヲ加ハヘ行政ニ司法ノ干渉ヲ容ルスモノナリトハ云フヲ得ス

畢竟司法主義ニ對シテ憲法義解ニ抱ケル所ノ懸念ハ(一)行政ヲ以テ司法ニ隷属セシメ以テ行政ノ活動ヲ麻痺消燼スヘカラサルト(二)司法

裁判官ハ通常行政ノ事宜ニ慣熟セサルニ依リ行政訴訟ノ裁判ニ任シ難キトニアリ今修正ニ於テハ上来陳フルカ如ク一モ此ノ懸念ニ觸ルル所ナシ然レハ則チ修正ハ決シテ憲法義解ニ矛盾スル所ナキノミナラス并上氏カ修正ヲ以テ司法義ナリトシテ抱ケル杞憂モ亦將ニ消滅スヘキナリ

第三　市町村制ハ訴願ニ付テモ亦既往主義ヲ採ラサルヿ

市町村制ニ於テ訴願ヲ許シタル明條數多アリト雖モ其性質ニ就テ之ヲ大別スレハ則左ノ二種トス

第一　市町村吏員ノ市町村行政事務ニ關スル處分若クハ議決

第二　市町村ノ行政事務ニ關スル郡長若クハ府縣知事ノ處分裁決（第一次若クハ第二次ニ於テナシタル）

尤ニ ノ場合ニ於テ第一ノ場合ノ列記タルハ井上氏モ既ニ承認シタル所ナリ第二ノ場合ニ於テハ一般ニ訴願ノ許セリ蓋シ市町村制ヲ以テ概括主義ナリトスル(ハ)要ノ場合ヲ指スナラン

今試ニスヱンゲル氏ノ獨逸行政法論ニ依テ列記法及概括法ノ義解ヲ觀ルニ曰

千八百七十五年十月二十二日ノ墺國ノ法律ニ依レハ行政裁判所ハ何人ニテモ違法ノ處分若ハ裁決ニ依テ其ノ權利ヲ毀損セラレタリトスル凡テノ場合ニ於テ裁判スヘキモ獨逸各邦ノ法律ハ行政裁判ノ職權ヲ定ムルニ此ノ如キ概括ノ方法ヲ以テセスシテ所謂列記法ニ從ヘリ之ヲ細説スレハ各邦ノ法律ハ行政裁判所ノ裁判スヘキ爭訟事件ヲ列擧シ並ニ法上ノ仕組(レヒツイン スチツート)ニシテ之ヨリ生スル爭訟ハ行政裁判所ヲシテ之ヲ裁判セシメント法律カ思惟スル者ヲ列記セリ

町村制第百二十條(市制第百十六條)ハ「町村行政ニ對スル監督」ナル法ノ一ノ仕組ヨリ生スル爭

訟ヲ訴願手続ニ依ラシメント市町村制カ思惟シテ別記ニタルモノナリ即チ亦別記ナリ字漏生郡制中亦全クソノ之ト同意義ノ條アリ而シテ未タ字漏生ノ法ハ概括法ナリト云フノ説ヲ聞カス尚此ノ條ニ就テハ曩ニ司法大臣ノ提案ニ對スル意見書中之ヲ詳論セリ左ニ其ノ一節ヲ抄録セン

蓋シ司法大臣カ依テ以テ市町村制ヲ概括主義ナリト認メラレタルハ町村制第百二十條(市制第百十六條)ナリトス理由書ニ曰

市町村ノ行政事務ニ関シ郡長若クハ府縣知事ノ第一次又ハ第二次ニ於テ為シタル處分若クハ裁決ニ對シテハ(中略)一般ニ訴願ヲ為スヲ許セリ特ニ法律ニ明文アル場合ニ限リテ之ヲ許サヽルモノトス

是レ概括主義ナルモノニ非ス所謂概括主義トハ司法大臣ノ提案ノ如ク唯一ノ法律ヲ以テ原則ヲ定メ之ニ依テ更ニ各種ノ法律ニ訴願ノ許否ヲ掲クルヲ避クルニ在リ而シテ列記主義トハ訴願ノ事ヲ唯一ノ法律ニ議テス

訴願ヲ許スヘキモノアル毎ニ其ノ事件ニ関スル法律命令ニ於テ訴願ノ事ヲ規定スルヲ謂フ故ニ市町村制ニ於テ訴願ノ事ヲ規定シタルハ是レ取リモ直サス列記主義ヲ採レル證據ナリ各種ノ法律命令ニ於テ其ノ事件ノ性質ニ從テ或ハ一般ニ訴願ヲ許スコト恰モ此ノ第百二十條ノ如クシ或ハ明ニ場合ヲ定ムルコト市町村吏員ノ市町村行政ニ関スル訴願ノ如クスルモ固ヨリ列記ノ主義ニ妨ケサルモノトス

將又國ノ行政ニ付テハ市町村制ハ明文ヲ掲ケスシテ其ノ理由書ニ依ルニ市制第七十四條町村制第六十九條ニ記載シタル事務即チ國ノ行政事務或ハ官治事務ニ関シテ訴願ヲ許スト否トハ一般ノ法律規則ニ從フモノトス故ニ警察ニ関スル訴願ハ警察上ノ法律ニ於テ其ノ許否ヲ定メ浦役場事務ニ関スル訴願ハ浦役場ニ関スル法律ニ於テ其ノ許否ヲ定メ其ノ他國ノ行政ニ関スル訴願ハ行政各種ノ法律ニ於テ其ノ許否ヲ定ムルノ精神ニシテ列記法ノ方針ヲ

ルヤ疑ヲ容レス
由是観之井上氏カ本院ノ修正ヲ以テ市町村制
ト矛盾スト云フルハ亦謬見タルヲ免レス

第四　欠席ノ為偶数ト成ルタル云々ノ事

又井上氏ハ本院議定ノ案第九條ニ「五人以上ノ列席合議
ヲ要ス」トアリテ本文ノ修正ニ於テ「若シ欠席ノ為偶
数ト為リタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除
ク」ト加ヘタルヲ非議シテ曰ク欠席トハ定員ニ對スルノ文字ナ
リ唯タ五人ノ定員ナリ故ニ欠席ト云フコトヲ得ヘシ云々
是レ欠席ノ為ニ五人ノ定員ヲ破リテ四人ニテ裁判スル
コトヲ得セシムルノ法文トシテ解釈スヘシ此レ乃法律
自定メテ又自之ヲ破ル者ナリト、是實ニ誣フルノ甚シ
キモノ、三氏ハ何ヲ以テ五人ヲ定員トスルヤ、全案中

更ニ其ノ正文ヲ見サルノミナラス却テ本条ニ五人以上ノ列席合議ヲ要ストアルニ依リ定員ハ時宜ニ依リ或ハ七人或ハ九人ナ一人等タル場合アルモノナルヲ知ルヘシ、即チ修正ハ此ノ如キ場合ニ於テ偶数ト為リタルトキヲ指スナリ五人ヲ定員トシテ審判ニ取掛リタル事件ニ付キ欠席ノ為ニ四人ノ偶数ト為リタルトキハ更ニ一人ヲ減シテ三人ノ奇数ト為シ以テ裁判スルコトヲ許スモノニ非ス、其ノ之リ許サヽルハ本則ニ於テ五人以上ノ列席合議ヲ要スト云ヘルニ譲リテ別ニ明言セス、且決シテ明言スルヲ要セサルナリ蓋此ノ如キハ最モ幼稚ノ論難ナリ」

以上叙論スル所ノ如クナルヲ以テ井上氏ノ本院ノ成案ハ此ノ如クシテ此ノ如ク決シタリト想像セラレタルハ惜矣弐徹頭徹尾事実ニ表裏シタルモノナリ既ニ本院ノ理由ニシテ一歴証スル根底アリトセハ氏ノ極府ノ尊厳ヲ干瀆スルノ嫌ナキ能ハス、トヽヒテ恰モ倉卒事ヲ議シタルノ事実存スルカ如ク批難シタルモノハ何等ノ失言乎氏ノ法律史ヲシテ自錯乱ノ観相アラシムルコトヲ杞憂スト云ヘルハ実ニ小官ノ同感ヲ表スル所ナリト雖氏ノ所感ト其ノ論難トハ寧ロ齟齬枘

鑿ノ誠ヲ免レンヤ蓋シ列記主義ト概括主
義トニ至テハ既ニ欧洲碩学ノ間ニ於テモ仍ホ両
派ニ分カレ其利害モ亦相半スルヲ以テ各〻其ノ
所見ニ従ヒ是レヲ善トシ彼レヲ可トシ互ニ得失ア
リト雖本院ノ議事敢テ其ノ利害得喪ニ及ハス
シテ列記ノ主義ヲ採ルニ至リタル所以ノモノハ
他ナシ既ニ発布セラレタル市制町村制発
制下諮詢中ニ係ル府県制郡制ハ列記主義ヲ
採リタルヲ以テ假令行政裁判法ニ於テ概括主義
ヲ是トスルモ前後矛盾ヲ避クルカ為ニ枉ケテ
列記主義ニ同意セサルヲ得ス何トナレハ地方
行政ノ憲法トモ称スヘキ市町村郡府県制ニ於
テ列記主義ヲ取リ既ニ墨痕未タ乾カサルニ忽然概
括主義ニ変シ法律ノ標準ヲ区々ニスルトキハ
国家立法ノ統一ヲ紊乱スルノ虞アルヲ奈何セ
ン是ヲ以テ利害ヲ措キ前発ノ法令ト同主義ヲ
取リタリ是レ廿上氏ト其憂フル所ヲ同クシテ
其ノ拠ル所ヲ異ニスルナリ却テ恐ル法制局ノ
提案ハ一事ニ付テハ寧国ノ主義ヲ採用シ他事
ニ付テハ之ヲ排撃スルヲ氏ハ放言シテ曰ク寧国

倣傚ノ弊制ニ倣フトスル日内ヲ賤ミ外ヲ尊ムト
氏ヲ静ニ自省セヨ行政裁判法ハ列記主義ヲ
既レリ是レ何レノ制ニ模倣シタルカ英仏墺ニ
其ノ例アルヲ将タ本邦ニ古来行政裁判ノ制アル
カ既ニ一タヒ孛国主義ヲ採用シテ今ハ孛国
ノ弊制ニ倣フト云ハヽ何ノ初メヨリ弊制トシテ行ケルヤ
又本邦ニ於テ曾テ其類例ナキ他国ノ制ニ倣ヒ仍ホ内ヲ賤ミ
外ヲ尊フトキ乎法制局長官ハ万般ノ法律ヲ調査スルニ当
リ果シテ能ク既内尊外ノ説ヲ以テ一切外国ノ制ヲ採用セサルヲト
得ル乎否モ本院ノ議事ノ結果ハ何ヲ容議セ

ントスルトハ明確ナル理由ヲ具備セサルヘカラ
ス然ルニ軽々言ヲ為スヤ此ノ如キニ至テハ深識
遠慮ナル井上氏ノ為ニ惜措カサル所ナリ若本
院ノ議ニシテ或ハ他ノ法典ト矛盾スルカ如キア
ラハ反覆熟議スヘシト雖井上氏ノ批難スル所ノ
本院ノ成案ハ潜考凝思ノ結果ナルヲ以テ実ニ一
点一画ノ欠所ナキヲ信セリ小官敢テ本院ノ為ニ
固執スルニ非スト雖成案毫モ削然スヘキ所ナキ
ニ於テハ断乎トシテ其ノ決議ノ動揺スルナキヲ冀
ハスンハアラサルナリ若井上氏以上ノ駁論ヲ以

テ尚ホ不満足ナリトセハ其疑ニ應シテ再答スル所アランノミ氏ハ一旦激昂シテ虚氣平心事物ヲ察識スルノ明ヲ失ヒ其ノ標準ヲ誤ルニ似タリ氏若法案ノ精神ヲ剖判セント欲セハ須ク満腔ノ熱血ヲ冷ニシ除ニ考慮ヲ費サヽルヘカラス氏ノ立論攻難ニ急ニシテ言辞ノ穏ナラサルモノアリト雖ト官ハ背テ細岐ニ渉リ反駁スルノ意ナシ唯タ至高詢謀ノ府ヲ誣ヒ各顧問官ノ大任重責ヲ顧ミサルニ至テハ焉ソ黙々看過スヘケンヤ井上氏ノ書牘既ニ各顧問官閣下ノ高覧ヲ経タレハ此ノ書モ亦併セテ各顧問官閣下ノ電閲ニ付セラレンコトヲ冀望ス惟フニ前日審議討論セラレタルノ理由ハ今尚ホ各顧問官閣下ノ脳ニ存スルモノアラン謹具

廿三年五月十四日
永田町官舎ニ於テ

伊東巳代治

大木議長閣下
寺島副議長閣下